

[様式 F]

1. 研究課題名：

持続的・地域社会構築の核としての自然保護地域の
評価・計画・管理・合意形成手法の開発

2. 研究代表者氏名及び所属：

土屋俊幸

国立大学法人東京農工大学 大学院農学研究院

3. 研究実施期間：平成 26～28 年度



4. 研究の趣旨・概要

わが国の自然保護地域、特に国立公園等の自然公園には、生態系の保全、優れた景観の保護、自然とのふれあい等の多様な役割がある。生物多様性の保全、森・里・川・海の連環形成、防災・減災、観光振興への期待も高まっている。本研究では、地域社会の持続性の核として自然保護地域を位置づけ、自然公園の計画と管理プロセスの構築に必要な評価・計画策定・合意形成・効果検証手法について、多面的な検討を行い、統合的な手法開発の方向を明らかにする。具体的には、協働型管理運営のための「自然保護地域計画・管理ツール」の構築を目指す。環境省が本格的に取り組む国立公園の協働型管理運営における、管理手法構築への大きな貢献が期待される。

5. 研究項目及び実施体制

(1) 国立公園における統合的管理計画策定手法の開発：国立大学法人東京農工大学

(2) 自然資源と利用体験に根ざしたゾーニングおよび利用規制の評価手法の開発：国立大学法人北海道大学

(3) 地域住民による自然公園の防災・減災・復興の機能の評価と合意形成の手法開発：国立大学法人岩手大学

(4) アジアの自然保護地域における管理運営制度と合意形成手法の研究：公立大学法人国際教養大学

(5) 国立公園の観光振興の到達度評価手法の開発：公益財団法人日本交通公社

(6) 国立公園の多面的価値の経済的評価手法の確立：国立大学法人京都大学

6. 研究のイメージ

「持続的・地域社会構築の核としての自然保護地域の評価・計画・管理・合意形成手法の開発」

